

広域光学イメージャ (GCOM-C後継ミッション): 継続

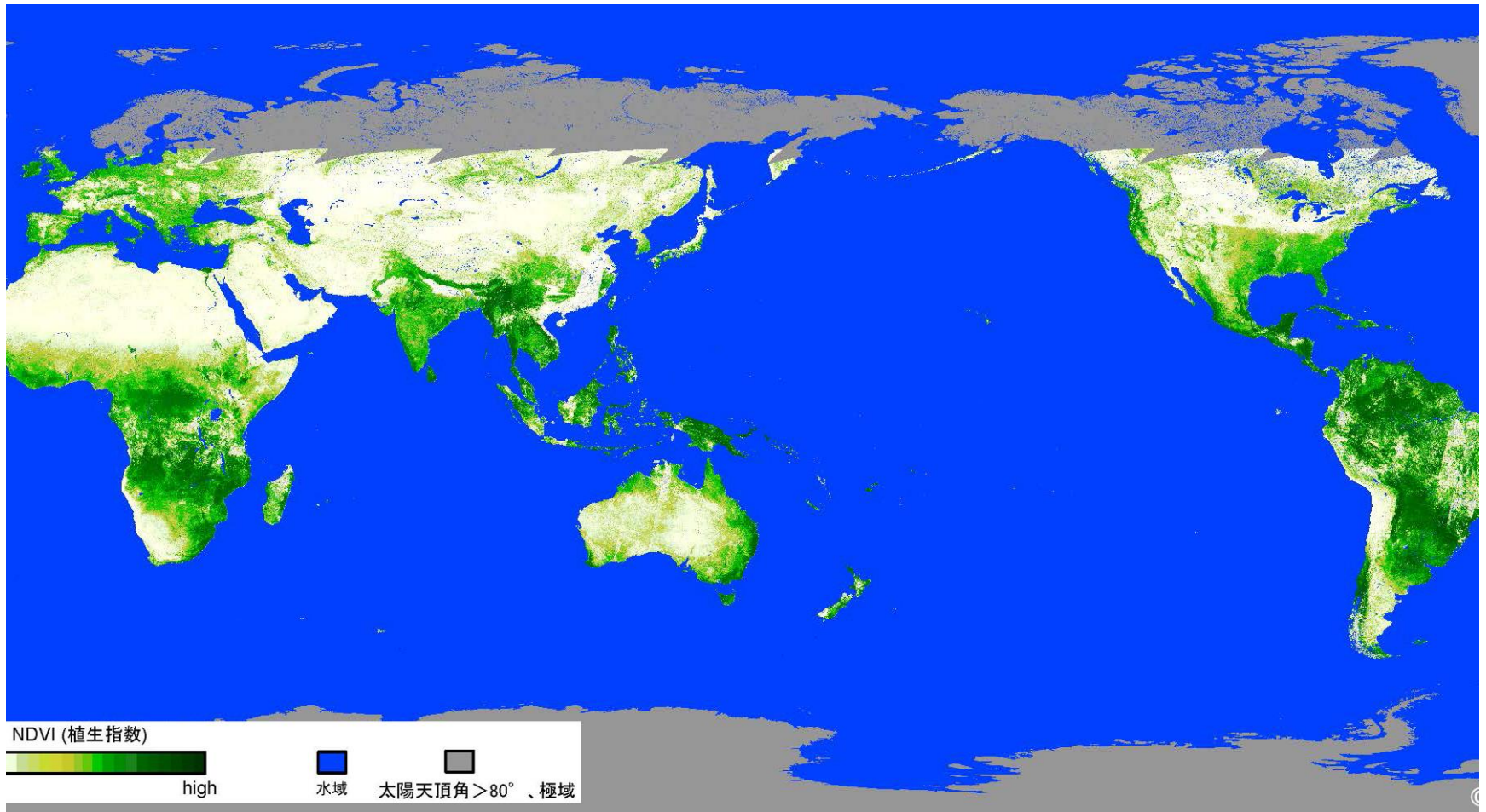
提案者: 本多嘉明(千葉大)

GCOM-C打ち上げ





多バンドによる全球、高頻度観測



高頻度の250mの意味

300m先の信号

目的と必要性

- 主な目的は、長期・継続的な定量的モニタリングによる地球環境変動（地球温暖化を左右する全球の放射強制力や生態系変動）の監視・解明である。
- 光学（近紫外～熱赤外）イメージャの技術は将来の新たな光学センサに発展しうる基盤的な技術であり、世界的優位を保つために継続する必要がある。

意義

- 気候システムの変動について現時点では予期していない変化も含め監視できる.
- 予測されている気候変動の進行状況を正確に把握できることにより, 温暖化抑制政策の効果の評価や, 将来に向けた適応策の策定とその診断的な軌道修正を行っていくことができる.
- 自国のセンサとして独自の情報源泉を持つことで, 気候変動の状況把握に対して日本独自の判断材料を持てる.
- 世界標準の情報として世界に発信することができ, 気候変動における国際的な戦略を持つことができる

評価

(総評)

- 海外を見ても中分解能光学センサは観測頻度・分解能のバランスから効果的でニーズが高く、自国で持つべき基本的なセンサとしての期待は大きい。開発コストの圧縮が可能であることも評価できる。

(実利用の観点から)

- SGLIの観測データからは、32の標準プロダクトと26種類の研究プロダクトを予定しており、多くの分野への波及効果が期待される。Terra/MODISデータの実績から、SGLIのデータがオープン&フリー化されれば、ビッグデータの1つとして認識され、AI技術と連携することで、多くの産業で発展的に利用されることが期待される。

まとめ(一粒で4つ美味しい)

継続しないと使ってもらえない、役立たない

- 予測して備えるため
 - 地球の気候システムの理解を深める
 - 放射強制力
 - 雲やエアロゾルの役割をより正確に把握
 - 炭素循環
 - 土地被覆やバイオマスをより正確に把握
- 危機に際し、対処するため
 - 気候変動の影響把握
 - 今、起きていることを正確に把握し対処する手助け
- 実社会で役立つ
 - 漁業(沿岸も含む)や山火事、火山噴火など
- 未来の人類への遺産